

そらんぽへ行こう

問 四日市公害と環境未来館 (TEL) 354-8065 (FAX) 329-5792)

**企画展「四日市公害からわたしたちが
学ぶこと～歴史は未来のみちしるべ～」
好評開催中!**

現在開催中の四日市公害と環境未来館開館10周年記念企画展では、昭和時代の写真とともに、高度経済成長期に全国で発生した公害を紹介しています。

会場では小学5年生以上のこども向けに、写真やイラスト付きの解説があります。撮影できる展示を写真に撮って、夏休みの自由研究にするのもお勧めです。

見どころは、四日市公害の改善に取り組んだ8人の「ことば」を集めた大パネルです。

当時30～40代の若手だった彼らは、産業



大パネルから力強いメッセージが伝わります

優先の社会の中で、四日市や日本の環境を良くするという大きな目標を持ち奔走しました。その「ことば」から環境改善の軌跡をたどり、歴史を未来への道しるべとしてこれからの環境を考える機会となれば幸いです。そして、この8人の一人である経済学者・宮本憲一さんの講演会の申し込みを受け付け中です。

同展は、4階特別展示室で8月31日(日)まで開催しています

(入場無料)。ぜひお越しください。

講演会の申し込みは
専用フォームから



文化財さんぽ

問 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873)

**詩人生誕の古刹
「大日寺」**

寺方町にある大日寺は、春には桜、秋には彼岸花が咲く参道の先にあります。市指定文化財「大日如来坐像」で知られていますが、作家で詩人の伊藤桂一の生家でもあります。

桂一の父は大日寺の住職でしたが、桂一が4歳のとき事故で亡くなり、桂一母子は大日寺を出て大阪、東京と居所を転々とししました。しかし、父の実家の伊藤醤油が寺方町内にあったことや父自身も大日寺に葬られたため、本市と縁が切れることはありませんでした。

伊藤桂一といえば「静かなノモンハン」などの戦場小説で知られていますが、三好達治



雨に濡れる大日寺の参道 (寺方町)

賞を受賞するなどし、詩人としても認められています。戦後復員し、川島町に滞在したことから生まれた「竹の思想」など本市を題材にした作品もあります。平成21(2009)年には、寺方町内にあった水車小屋にちなみ、市民団体による詩碑「水車」が大日寺内に建てられました。

平成、令和と時代は流れ、現在は醤油工場も水車小屋もありません。ですが、参道の緑が美しいこの季節、歴史ある大日寺を訪れて詩作に耽^{ひげ}ってみませんか。